

1. はじめに

国際森林年の2011年、国内テーマ「森を歩く」にちなんで、Value Frontier主催による、「みんなで学ぼう！森林の生物多様性シンポジウム＆森林見学ツアー」を全国5か所で開催致しました。シンポジウムでは、地域ごとに特色のあるテーマを設定し、研究者による基調講演や地域の森林整備や生物多様性の保全への取り組み事例をご紹介します。またツアーは事例発表団体のご協力により、実際に活動されている森林を見学できるツアーを開催致しました。お蔭様で多くの参加者から、「大変勉強になった」、「具体的な事例を学べる貴重な機会になった」、「楽しかった」、「森林の生物多様性について理解が深まった」という感想を頂きました。基調講演の先生方には、専門的な内容を大変分かりやすくご講義頂き、また事例では、日々のご活動内容を生き生きとお話し頂いたことで、森林や生物多様性をより身近に大切なテーマとして感じて頂けたのではないかと思います。一方で生物多様性という広いテーマを扱っているため、「シンポジウムでのご講演と個々の事例発表のつながりが見えづかった」というご指摘もありました。またツアーに関しては、「もっとゆっくり森を歩き動植物の観察をしたかった」、「ツアーのみの参加のため、事例発表の知識が不足しており、具体的な背景や活動内容が分かりづらい点があった」という声も頂きました。このような声を頂くことにより、本事業を通じて、多くの方に森林の生物多様性について考え、そして体験して頂く機会をご提供することができただけでなく、今後このような普及啓発を行う上で、効果的な情報発信や企画内容についても、様々な知見を得ることができました。

半年間という短い期間で、全国5か所でこれほど特色のあるシンポジウムとツアーを開催することができたのは、本事業の補助機関でもあり企画から運営まで全面的にサポートを下された林野庁の皆様、そして各地の事例発表ならびにツアーご協力団体、基調講演の先生方の多大なるご尽力のお陰と、改めてこの場をお借りして心から感謝申し上げます。国土の約7割を森林が占めている日本は、生態系の恵みの多くを森林に依存しています。そしてこれから私たちが国内の森林をどのように保全し活用していくかによって、将来の森林資源や生態系の姿も大きく変わっていきます。今回のシンポジウムとツアーを通じて、その「姿」は森林と共に暮らす地域や、恵みを享受しているあらゆる主体が関わりながら、模索し活動し続ける中で、地域全体の合意として形作られていくべきもので、「一つの解」はないということを感じました。この報告書が、私たちの暮らしや経済、社会や文化と森林のつながりをもう一度見直し、これからの森林との付き合い方、森林が持つ多面的な機能の価値、自治体や企業、市民の連携による森林保全の可能性など、森林の生物多様性を守り、そして活かす方法を考える上で、多くの方々のお役に立てることを心より願っています。

平成23年12月吉日
Value Frontier 株式会社